

5年家庭科指導案

授業日 平成16年 6月1日

授業者 中村京子

場所 5年組教室

1 題材名 ぼくにも・わたしにもまかせて ～家族に感謝～

2 題材について

(1) 題材観

家族の形や意味が以前に比べて大きく変化している。以前は家族で何かをすれば『働くこと』が主であったが、現在は『家族でどこかへ行く』ことが中心におかれるようになってきた。しかし親の意識も変わり、親子が接する時間の変化はあっても、親が子を思い子が親を思う気持ちはかわらないと思う。

5年生になって初めて家庭科を学習している。生活的自立能力を育て、家庭生活の充実向上を図るとともに、よりよい家庭生活を創造する力と意欲を育てようとしている。ある程度の生活技能や生活習慣を身に付け、生活についての関心を深め学ぶ意欲が育ってきた5年生だからこそ、生活的な自立能力を育てるには適時といえる。

この題材は家庭科との出会いの学習であり、大きく二つの内容を含んでいる。一つ目は家族や自分がどのように生活しているかを知ることである。

二つ目は、一つ目の学習で知った家族とのかかわりを持ち、家族の大変さを知って家族への感謝を持つこと。そして、自分が家族の一員として仕事を受け持ち、継続的に続けようとすることで生活の技能を身につけていくようにすることである。家族構成や家庭の状況には十分注意しなければならないが、どの子にも家庭生活への関心を高めることを通し、家庭科学習のスタートとしたいと考える。家族の支えを知って、時代の変化に流されない、自ら課題を見つけ自ら学ぶ力・思いやりの心を持って豊かに生きる気持ちなど、『生きる力』を家庭科を通して育てていきたい。

(2) 児童の実態

素直で活発な子どもたちである。意欲もあり、真剣に学習している。しかし、仲間の中で自分を表現しにくい子や経験や体験の不足から判断力の身に付いていない子も多く見受けられる。また実態調査によれば、自分の身の回りのことを親に依存している子も多い。お手伝いは言われてやることが多く、多くの子があまりやっていない。自分が家族に家庭でいろいろしてもらっていることを意識したり、自分も手伝わなくてはという強い思いをもって生活している子は、少ない実態である。

《本校が金銭教育で願う子どもの姿についての実態》

正しく判断する子

体験や経験が不足しており、そのため判断が出来ないことがある。親にいろいろ指図されている子が多い。意欲は多くの子が持っている。

ものやお金の価値がわかり、正しく使う子

ものやお金はだいたいの子が大切にしていると自覚している。お金の使い方を計画的にしている子は少ない。貯金は多くの子がしている。

人やものとのかかわりの中で感謝の心をもつ子

親に感謝している子は多いが、働いてお金を得ていることを挙げた子は少ない。

(3)指導の方向

家庭との連携を大切にしたいと考える。一人一人が家庭での生活を想起したり、調査したりすることを通して課題を設定する。(生活みつめ)課題把握)その課題を学校での学習と家庭での体験で追究し(課題追究)仲間と話し合って学んだことを自分の家庭生活に生かす(生活にいかす)というような流れでこの題材を学習してきた。

今までなにげなく過ごしていた家庭生活を、関心を持って見つめ直し、家族の一員としての自分の存在と役割があることに気づくと「何か自分に出来ることはないか」「自分に出来そうな仕事を見つけよう」「家庭の仕事をやってみよう」という意欲につながると考える。家庭にも通信等で協力をお願いしていきたい。

(4)研究(金銭教育)とのかかわり

家庭科は金銭教育の中では、主に消費者教育の部分を担うことが多い。6年生の家庭科ではお金の使い方を自分の生活とのかかわりで考え、体験的に学ぶ題材がある。そのために5年生では、家庭生活に関心を持ち、家族に支えられている自分に気づかせたい。その学習により家族に感謝する気持ちを持ち、自分も自分のことを自分でしようとしたり、家庭で何か手伝おうという生活的な自立能力を育てたりすることで、6年生の値打ちある金銭の使い方につながる基盤になると考える。また身の回りを整える学習を通して、「もったいない」という気持ちや環境に対する意識を高めていきたい。本題材では以下の2点についてかかわりがあると考え、仕組んでみた。

家族は、自分や他の家族のためにいろいろな仕事をして支えていてくれること。
家族に対する感謝の気持ちを持ち、自分でも仕事をやろうとすること。

お金では買えないものが家庭にはたくさんある。親への感謝の気持ちを持つ子であるならば、ものやお金の価値や大切さが分かり、正しい使い方が将来にわたっても出来るのではないだろうか。だから家族の仕事の大変さを知ることを出発点に、支えられている自分・大切にされている自分を理解し、家族への感謝の気持ちを高めるようにしたい。

3 題材の目標

家庭生活を見つめ、自分の家庭生活へのかかわりを考えることが出来るようにする。

家族は、一日の家庭生活の中でたくさんの仕事をし、自分を支えてくれていることがわかる。

自分の分担する仕事や協力する仕事の仕方を工夫して実践し、家族とのふれあいが出来るようにする。

4 題材指導計画 ~ 別紙 ~

5 本時の目標

一日の中で家族が自分のためにいろいろ働いてくれていることや自分のためにかかる時間がたくさんあることに気づき、そのことに感謝するとともに、自分も何か受け持って家族のために働きたいという意欲を持つことが出来る。

6 授業を見る視点

児童は自分の仕事に対して意欲を持つことが出来たか。

金銭教育とのかかわり【   勤労 感謝 】

調査活動の交流の中で、勤労や感謝についての発言があり、教師は価値付け整理することが出来たか。

学習習慣(話を聞く態度)を身につけさせる指導援助ができたか。

7 本時の展開 **評価規準** 家族に感謝し、自分も家庭生活でなにか仕事を受け持とうとする意欲をもつ。

	ねらい	学 習 活 動	評価と指導・援助
みつめる	本時のめあて (課題)をつかむことができる。	1 今日の課題を考える。 家族の仕事調べの結果を交流し、自分の生活を振り返ろう。	・事前に家庭での仕事調べを把握し意図的指名に生かす。 ・授業の出口で自分の生活について考えることを押さえる。
ふかめる	家族がたくさんの時間を使って自分のためにいろいろな仕事をしていることがわかる。 家族の一日を見て、感謝の気持ちをもつことができる。	2 家族の仕事調べから、家族が自分や家族のためにどんな仕事をし、どれくらい時間を使っているかを交流する。 食事の準備・洗濯・衣服の整理・掃除等 昼間は自分の仕事をしているんだ。 だいたい 時間くらい働いている。 3 仕事調べからわかったことや思ったことを、交流する。 朝起きてから夜寝るまで多くのことをしてもらっているな。 時間を考えると自分の自由な時間はほとんどないなあ。(家族) 家の人に感謝したい。 働き者だな。	・仕事調べをもとに自分の家族の仕事が発表できるよう、資料を提示したり、自分の調査を見やすくしておくなど事前の活動を仕組み援助をする。 ・感想を勤労と感謝のキーワードで価値付ける。 家族への感謝の気持ちが深まるよう援助する。 問いかけや切り返しをしたり、家族の言葉を想起させたりする。
まとめる	自分も家族のためになにか仕事を受け持ちたいという意欲を持つことができる。 学習の評価をする。次時への見通しを持つことができる。	4 話し合ったことをもとに自分の生活を振り返り、自分も何か仕事を受け持ちたいという気持ちを話したり、書いたりする。 家族の大変さがわかったので自分も何か手伝いたいと思う。 自分は今まであまり家の仕事をやっていなかった。 5 『学習の仕方はよかったか』『楽しく学習できたか』について自己評価する。 6 次時の内容について知り、意欲を持つ。	・以前に書いた自分の生活調べも参考にする。 ・自分の気持ちを素直に表現することが出来るよう班で話す・ペアで話すなど学習形態を工夫する。 ・ノートに自分の思いを記入する。 1 ノートの内容 2 発言意欲と内容 ・次時の内容を伝える。

事後指導

自分にまかせてもらう仕事について家の人アドバイスを受けて、計画し実行する。工夫しながら継続的に行い記録をとる。学級で『お手伝い発表会』を行う。